

清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の KPI に係る平成 28 年度実績及び一部改正（案）

1 基本事項及び見直しの視点

- 数値目標とは、4つの基本目標ごとに、KPI とは、具体的な施策ごとにそれぞれ設定した達成すべき目標。（設定趣旨：総合戦略に位置付けた施策の効果を客観的に検証するため。）
- 数値目標及び KPI に設定された基準値は、原則として平成 27 年（1 月～12 月）の数値等とし、目標値は原則として計画期間終了時の平成 31 年度の数値等としている。（例外は個別に記載）
- 今回の総合戦略の見直しに係る視点
 - (1) 原則として 4 つの基本目標とその数値目標を維持し、総合戦略の骨格は変更しない。
 - (2) 既に達成した KPI や事業の進捗状況等を踏まえて、数値目標の達成に向けて修正が必要な箇所に絞り、適宜 KPI の項目や目標値を修正する。（それに連動した本文の修正は「資料 2」参照）

2 数値目標の状況

	数値目標			
	項目	基準値	平成 28 年度実績	目標値
基本目標① 地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる	休日の滞在人口率の向上	1.94 倍（平成 26 年） 0.87 倍（平成 27 年）	（平成 28 年 4 月～8 月の平均） 0.88 倍	2.2 倍 0.92 倍
基本目標② 若い世代が子育てしやすいまちをつくる	年間出生数の現状維持	700 人 （平成 18 年から平成 27 年までの 10 年間の 平均値）	736 人	700 人以上
基本目標③ シニア世代が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる	要介護認定率の抑制	15.6%	15.7%	17.5%未満
基本目標④ 安全・安心で快適に暮らせるまちをつくる	人口の社会増の継続	社会増	529 人	毎年度継続

3 KPI の状況

KPI の達成見込み						計	備考
	基本目標①	基本目標②	基本目標③	基本目標④			
[A] 既に達成済み	1	3	2	1	7	平成 28 年度末時点で既に目標値を達成できたもの	
[B] 大きく上回る見込み	0	0	0	0	0	平成 31 年度末時点で目標値を 20%以上上回る見込み	
[C] 達成できる見込み	1	1	2	5	10		
[D] どちらともいえない	2	3	0	2	6		
[E] 達成できない見込み	2	1	0	1	5		
[F] 大きく下回る見込み	3	0	0	0	2	平成 31 年度末時点で目標値を 20%以上下回る見込み	
[G] その他	0	0	1	0	1		
計	9	8	5	9	31		

基本目標① 地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる

[数値目標の変更理由]
 データ出典元の地域経済分析システム（RESAS）において、当該データの計算方法が変更されたため。
 ⇒ 平成27年における休日の滞在人口率（14時時点）の年間平均を基準値として設定し、平日の滞在人口率（14時時点）の年間平均を目標値として設定する。

数値目標	休日の滞在人口率の向上	[基準値] 1.94倍(平成26年) 0.87倍(平成27年)	[実績]0.88倍	[目標値] 2.2倍 0.92倍	★(出典元の計算方法が変更されたため)
------	-------------	--	-----------	-----------------------------	---------------------

KPI	基準値	実績 (平成28年度)	目標値 (平成31年度)	(a)達成見込み(平成31年度末)	(b)(a)を選択した理由(□)、目標値達成に向けた課題(■)等	KPI修正 の必要性
施策① 歴史・自然を中心とする地域資源の積極的な活用						
◆ 清洲城及び清洲貝殻山貝塚資料館の合計入場者数(年) [産業課]	85,204人 (清洲城:80,184人 貝塚資料館:5,020人)	87,360人 (清洲城:78,273人 貝塚資料館:9,087人)	120,000人	[E] 達成できない見込み	□ 武将観光の斜陽化等で近年増加傾向だった清洲城入場者は減少に転じたが、貝塚資料館入場者数は大幅に増加した。ただし、現状の水準では目標達成は困難。 ■ 旅行会社との連携による誘客促進と併せて、キリンビール名古屋工場を含む三者連携等により新たな客層の創出が必要。	—
◆ ふるさと納税寄附件数(年) [企画政策課]	900件 (平成28年度 予算上の見込み 件数)	1,984件 [参考]寄附金額: 28,409,000円	2,700件	[D] どちらともいえない	□ 平成29年度の4月～6月の3箇月分の実績(344件・5,520,000円)が、前年度同期比で2.5倍(136件・1,910,000円)となっており、堅調に実績を伸ばしている。 □ 総務省通知(平成29年4月1日付)により、返礼品のあり方について、一定の歯止めがかかった。寄附件数の増加基調への影響については、今後の寄附者動向を見極める必要があるため。	—
施策② シビックプライドの醸成と人材の育成						
◆ 清須学講座(仮称) 清須学講座の受講者数(累計) [生涯学習課]	—	95人	160人	[C] 達成できる見込み	■ 平成29年度時点で受講者(39人)のうち、6割弱が前年度からのリピーターであり、受講者の固定化が懸念される。 ■ 毎年度、講座内容を一部更新し、適切な講師の確保が課題。	★ 正式名称 の決定
◆ 清須学歴史マイスター(仮称) 清須マイスターの認定者数(累計) [生涯学習課]	—	24人	40人	[D] どちらともいえない	■ マイスター認定基準を満たすためには、その方自身の努力や実績が必要だが、そのためにも、より多くの清須学講座修了者に清須検定(マイスター認定の試験)へ挑戦してもらうことが重要。そこで、講座内容の充実により受講者の裾野を広げる必要がある。	★ 同上
施策③ 観光アクセスの充実						
◆ あしがるバスのバス停「清洲城」の乗降者数(年) [企画政策課]	227人	292人	500人	[F] 大きく下回る見込み	■ 利用促進イベントの実施やモデルルートマップによる啓発を引き続き実施する。	—
◆ 「きよすあしがるサイクル」の1日あたりの利用者数 [企画政策課]	2.8人	3.0人	3.8人	[E] 達成できない見込み	■ 市外からの観光客が名鉄新清洲駅から清洲城へ向かう手段として一定の効果を上げているが、利用者の伸び悩みが課題。引き続き、啓発等に努める。	—
施策④ 観光情報発信力の強化						
◆ 清洲城及び清洲ふるさとの館における「Kiyosu Free Wi-Fi」のアクセス件数(年) [産業課]	131件 (平成27年 10月から12 月までの実績)	1,096件	5,000件	[F] 大きく下回る見込み	□ 「Kiyosu Free Wi-Fi」整備から間もなかったため、来場者への告知や案内表示が少ないことが要因。 ■ 無線LANに特化した大型ポスターの掲出、チラシ掲載、館内放送アナウンスを増やして、目標値に近づける。	—
◆ 清洲城の外国人入場者数(年) [産業課]	—(未集計)	1,614人	3,500人	[F] 大きく下回る見込み	■ 今後は訪日外国人ツアーの企画を旅行会社に働きかける。	—

KPI	基準値	実績 (平成28年度)	目標値 (平成31年度)	(a)達成見込み(平成31年度末)	(b) (a)を選択した理由(□)、目標値達成に向けた課題(■)等	KPI修正 の必要性
施策⑤ 創業支援の促進						
◆ <u>平成28年度中に「創業支援事業計画」を策定</u> ⇒ <u>創業支援事業による創業件数(年)(北名古屋市、豊山町等の窓口を含む。)</u> [産業課]	—	「創業支援事業計画」を策定	<u>平成28年度中に策定</u> ⇒ <u>30件</u> <u>(平成32年度末時点)</u>	[A] 既に達成済み 理由：創業支援事業計画での年間目標値と整合性を持たせる	<input type="checkbox"/> 2市1町(清須市・北名古屋市・豊山町)の自治体・商工会が共同で策定した。(平成28年5月20日付)	★ 策定後の目標

基本目標② 若い世代が子育てしやすいまちをつくる

数値目標 年間出生数の現状維持 [基準値] 700人(平成18年から平成27年までの10年間における年間出生数の平均値) [実績] 736人 [目標値] 700人以上(毎年度)

KPI	基準値	実績 (平成28年度)	目標値 (平成31年度)	(a)達成見込み(平成31年度末)	(b) (a)を選択した理由(□)、目標値達成に向けた課題(■)等	KPI修正 の必要性
施策① 安心して妊娠・出産ができるための支援						
◆ パパママ教室の参加者数(年) [健康推進課]	290人	213人	300人	[D] どちらともいえない	□ 現在、平成30年度の子育て世代包括支援センター設置を見据えて、母子保健事業の見直しを行っており、現在と同様のやり方で継続するかは未確定の部分があるため。	—
◆ 一般不妊治療費助成金の受給者の内、母子健康手帳の交付を受けた者の割合 [健康推進課]	26.8% (平成26年度)	30.3% <small>(一般不妊治療費助成申請件数66件中、母子健康手帳発行件数20件)</small>	増加	[C] 達成できる見込み	□ 今後も需要があると見込まれるため。 [参考] 平成27年度: 26.2% (61件中16件) 平成26年度: 26.8% (56件中15件) ※基準値は平成27年(1月~12月)実績で設定	—
施策② 子育て支援サービスの充実						
◆ 病児・病後児保育の利用者数(年) [子育て支援課]	392人	564人	600人	[D] どちらともいえない	□ 施設規模を考慮すると600名前後が実績見込みとなるが、感染症流行期の状況により利用者は前後するため。 ■ 病児から病後児に移行する利用者を公立病後児保育施設で円滑に受け入れるための病児保育実施機関との連携体制の整備が課題。	—
◆ 放課後児童クラブの利用者数(年) [子育て支援課]	75,299人	92,638人	85,000人 ⇒ 93,000人	[A] 既に達成済み	□ 平成27年度より対象を小学校3年生までから小学校6年生までに拡充したこと、就労される母親が増えたことなどから着実に放課後児童クラブの利用者は増加している	★ 数値の上方修正
◆ 放課後子ども教室の利用者数(年) [学校教育課]	32,996人	32,163人	36,000人 理由:平成28年度実績を基準として、毎年それ以上の水準を目指す	[E] 達成できない見込み	□ 現在の実施校4校では、放課後児童クラブとの棲み分けもあり、利用数は近年ほぼ横ばいで、大幅な増加は見込めない。 ■ 引き続き、安全に留意しつつ、各教室で特色ある取組みを通じて、引き続き内容の充実に努める。	—
施策③ 育児環境の整備						
◆ スマートフォン用アプリ及び子育て特設Webサイトの合計アクセス件数(年) [子育て支援課]	— (平成28年3月事業開始予定)	47,142件	33,600件 ⇒ 48,000件 理由:平成28年度実績を基準として、毎年それ以上の水準を目指す	[A] 既に達成済み	□ 妊娠届時及び転入者の児童手当申請者全員に子育てアプリ「キヨスマ」のチラシを配布するなど周知を図ってきた。 ■ 今後は横ばいか、減少が懸念されるため、従前のようなアプリの存在をお知らせする周知から、「アプリの使い方」や「機能の紹介」など、使ってみたくなる周知へと工夫を凝らすことで、アクセス件数の維持・増加を図ることが課題。	★ 数値の上方修正
◆ 子育て支援センターの利用者数(年) [子育て支援課]	25,794人	35,089人	30,000人 ⇒ 36,000人	[A] 既に達成済み	□ 西枇杷島子育て支援センター新設で、利用者が増加した。 ■ 広報紙や市ホームページの他、子育てアプリへの情報掲載による情報発信に努めており、今後も利用者の増加を目指す。	★ 数値の上方修正
施策④ 子育てに対する経済的な支援						
◆ 子ども医療費支給の継続実施 [保険年金課]	—	9,537人 平成28年度平均受給者数(0歳~15歳)	継続実施 理由:平成28年度実績を基準として、毎年それ以上の水準を目指す	[D] どちらともいえない	■ 今後も継続して実施する。	—

基本目標③ シニア世代が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる

数値目標	要介護認定率の抑制 [基準値] 15.6% [実績]15.7% [目標値] 17.5%未満
------	---

KPI	基準値	実績 (平成28年度)	目標値 (平成31年度)	(a)達成見込み(平成31年度末)	(b) (a)を選択した理由(□)、目標値達成に向けた課題(■)等	KPI修正 の必要性
施策① シニア世代の社会参加の促進						
◆ 60歳以上の清須学歴マイスター(仮称)清須マイスターの認定者数(累計) [生涯学習課]	—	20人	20人 ⇒ 28人	[A] 既に達成済み	<input type="checkbox"/> 事業初年度である平成28年度のマイスター認定者24人中、20人が60歳以上であり、既に目標を達成した。 <input type="checkbox"/> 平成29年度の清須学講座受講者も半数以上が60歳以上なため。 <input checked="" type="checkbox"/> 認定者が実際にシビックプライドの醸成の牽引役として活動できるよう、既存のガイドボランティア団体を斡旋しているが、実際に新規で加入された方はいない現状が課題。	★ 正式名称の決定 数値の上方修正
◆ シルバー人材センターの会員数 [高齢福祉課]	442人	431人	456人 (平成29年度)	[C] 達成できる見込み	<input type="checkbox"/> 実績は基準値を下回ったものの、今年度から寿会の事業等、高齢者が多く集まる機会を活用し、チラシ等により従来以上に啓発しており、今後も継続することで目標値の達成を目指す。	—
施策② 市民協働の推進						
◆ 平成28年度中に拠点づくり、市内部の推進体制のあり方の検討 ⇒ 市事業の市民活動団体による事業実施の検討 [企画政策課]	—	検討を行った	平成28年度中に検討 ⇒ 事業の実施	[A] 既に達成済み	<input checked="" type="checkbox"/> 平成30年度に、集約・一元化した市民活動団体の活動等に係る情報を生かして、新規事業の開始時だけでなく、既存の事業も含めて、市民協働による事業の促進を図ることが課題。	—
施策③ 地域包括ケアシステムの構築						
◆ 地域に適合した地域包括ケアシステムの構築 [高齢福祉課]	—	地域包括ケアシステム推進委員会として以下の会議を開催 ・地域ケア推進部会(1回) ・在宅医療・介護連携推進部会(2回) ・認知症施策推進部会(2回)	毎年度実施	[C] 達成できる見込み	<input type="checkbox"/> 平成29年4月から地域包括ケアシステムの核となる「介護予防・日常生活支援総合事業」を開始。平成30年度からは「生活支援体制整備事業」を実施予定。地域包括ケアシステム推進委員会の中で各専門分野の委員の意見を聞きつつ、今後の各事業の方向性を検討・確認しながら施策を実施していく。 <input checked="" type="checkbox"/> 市民や介護事業所、医療機関等に地域包括ケアシステムへの理解と共感を得ながら事業を展開していくことが必要。	—
施策④ 官学連携による介護予防・健康づくりの推進						
◆ らく楽運動教室を実施する自主グループ数(累計) ⇒ 清須市民げんき大学の受講者数(累計) [高齢福祉課]	15グループ —(平成29年度から開始)	16グループ	25グループ ⇒ 90人	[G] その他	<input type="checkbox"/> 介護予防事業の再編により、らく楽運動教室は平成28年度までの実施となったため、今後は現行のKPIでの進捗管理が不可となった。平成29年度からの官学連携による取り組みとして、新たに「清須市民げんき大学」を開始した。	★ 新規事業で再設定

理由：基本目標①の施策②で掲げるKPI目標値40人まで、残り16人で達成できることから、その半数(16÷2)について、シニア世代からの認定を目指す。

理由：拠点づくり、市内部の推進体制のあり方に関する検討を終えた。そこで、今後は集約・一元化した情報を活用した市民協働手法による市事業の推進を図るための検討段階に入り、具体的な事業の着手を目指すことを目標とする。

理由：介護予防事業の再編に伴う事業の整理を受けて、従前のKPI項目が不可となったため、新たな官学連携事業によりKPIを設定する。目標値は、人材の育成度合いを量的に測る趣旨から講座受講者数で設定することとし、定員である30名の受講を3箇年毎年度(平成29年度～平成31年度)達成することを目標値とする。

基本目標④ 安全・安心で快適に暮らせるまちをつくる

数値目標 人口の社会増の継続 [基準値] 社会増 [実績]529人増加 [目標値] 毎年度継続

KPI	基準値	実績 (平成28年度)	目標値 (平成31年度)	(a)達成見込み(平成31年度末)	(b) (a)を選択した理由(□)、目標値達成に向けた課題(■)等	KPI修正 の必要性
施策① 河川・排水対策の充実						
◆ 公共下水道（雨水）整備の進捗率（整備済延長/事業計画延長） [上下水道課]	[二ツ杵幹線] 76.27% (平成27年度末見込み)	91.4%	[二ツ杵幹線] 100% (平成29年度に事業完了予定)	[C] 達成できる見込み	□ 達成に向けて事業を進めている。	—
◆ 雨水ポンプ場の長寿命化（耐震・更新）事業の進捗率（執行済額/基本協定額） [上下水道課]	[堀江ポンプ場] 6.07% (平成27年度末見込み) [豊田川ポンプ場] 4.82% (平成27年度末見込み)	[堀江ポンプ場] 9.07% (執行済額：24,000千円) [豊田川ポンプ場] 16.17% (執行済額：227,080千円)	[堀江ポンプ場] 27.29% (平成35年度に事業完了予定) [豊田川ポンプ場] 50.00% (平成34年度に事業完了予定)	[C] 達成できる見込み	■ 達成見込みだが、両ポンプ場とも、雨水排水ポンプ場の性質上、渇水期（10月～4月）に作業を行う工種が多く、天候によっては、事業進捗が遅れる懸念はある。	—
施策② 地域防災の担い手の確保						
◆ 自主防災組織のブロック単位（全38ブロック）での設置 [防災行政課]	36ブロック	36ブロック	38ブロック	[D] どちらともいえない	■ 各ブロックの事情もあり、達成見込みは不透明だが、今後とも地域防災力向上のため、設置に向けた働きかけを行う。	—
◆ 消防団員の定員確保（条例定数293人） [防災行政課]	283人	280人	293人	[E] 達成できない見込み	□ 若年層人口の減少や被雇用者の増加、また、地縁を活用した募集活動などが厳しくなっているため、達成が難しい状況。 ■ 消防団において、住民が参加しやすい環境を整え、これまで以上に機会を捉えて幅広く参加を呼び掛けることが必要。	—
施策③ 市街地整備等の推進						
◆ 土地区画整理事業実施計画に基づく事業の推進 [地域開発課][新清洲駅周辺まちづくり課]	[清洲駅前] 平成27年度より着手 [新清洲駅北] 平成26年度より着手	[清洲駅前] 仮換地指定に向けて計画準備及び道路等の施設整備に向けて設計協議を進めた。 [新清洲駅北] 仮換地指定を終え、移転補償・仮線用地買収に着手した。	[清洲駅前] 平成36年度の事業完了 [新清洲駅北] 平成35年度までに仮線跡地整備及び換地処分等を除く事業の完了（平成52年度の事業完了） ⇒平成35年度の事業完了（仮線跡地整備及び換地処分等を除く）	[D] どちらともいえない 理由：清洲駅前の表現に合わせた字句の整理。	□ 両地区とも、地権者等からの理解を得ながら進める事業であり、予期せぬ進捗の遅れが生じる懸念があるため。 [清洲駅前] 仮換地指定について、十分に検討を進めると共に、工事施工に向けた設計図書の準備を進めており、引き続き着実な事業の進捗に努める。 [新清洲駅北] 国費の内示額による予算変動や、地権者との契約交渉などがあり、目標達成は不透明。	—

KPI	基準値	実績 (平成28年度)	目標値 (平成31年度)	(a)達成見込み(平成31年度末)	(b) (a)を選択した理由(□)、目標値達成に向けた課題(■)等	KPI修正 の必要性
施策④ 公共交通の充実						
◆ 「きよすあしがるバス」の1便あたりの利用者数 [企画政策課]	オレンジ： 5.0人 グリーン： 4.8人 サクラ： 5.4人	オレンジ： 5.8人 グリーン： 5.5人 サクラ： 7.0人	オレンジ： 5.6人 グリーン： 5.7人 サクラ： 6.2人 ⇒ オレンジ： 6.4人 グリーン： 6.1人 サクラ： 7.6人	[C] 達成できる見込み 理由：平成28年度実績を基準として、毎年度0.5%（0.2人）の上昇を目指す。	□ サクラルートに新規で設置したバス停（はるひ呼吸器病院）の乗降者数が大きく伸びていることや、「1日無料デー」等の啓発活動に努めた結果、全体的に実績が向上した。	★ 数値の上方修正
◆ 「きよすあしがるバス」の認知度 [企画政策課]	89%	96%	98%以上	[C] 達成できる見込み	□ 事業開始から10年が経過し、市民間に着実に浸透しており、今後とも毎年度イベントでの啓発活動等に努めるため。	—
施策⑤ 公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進						
◆ 平成28年度中に「公共施設等総合管理計画」を策定 [財政課]	—	「公共施設等総合管理計画」を策定	平成28年度中に策定 <u>（平成28年度中に策定済）</u>	[A] 既に達成した 左記を追記することで、進捗履歴を残す	□ 「公共施設等総合管理計画」を策定した。（平成29年3月付）	★ 策定後の目標
◆ 平成32年度までに「個別施設計画」を策定 [財政課]	—	「個別施設計画」の上位計画に相当する「公共施設等総合管理計画」を策定	順次策定（平成32年度まで）	[C] 達成できる見込み	□ 平成29年度は「個別施設計画」策定のための劣化度調査業務を実施し、平成32年度までの策定に向けた業務を着実に進めているため	—